

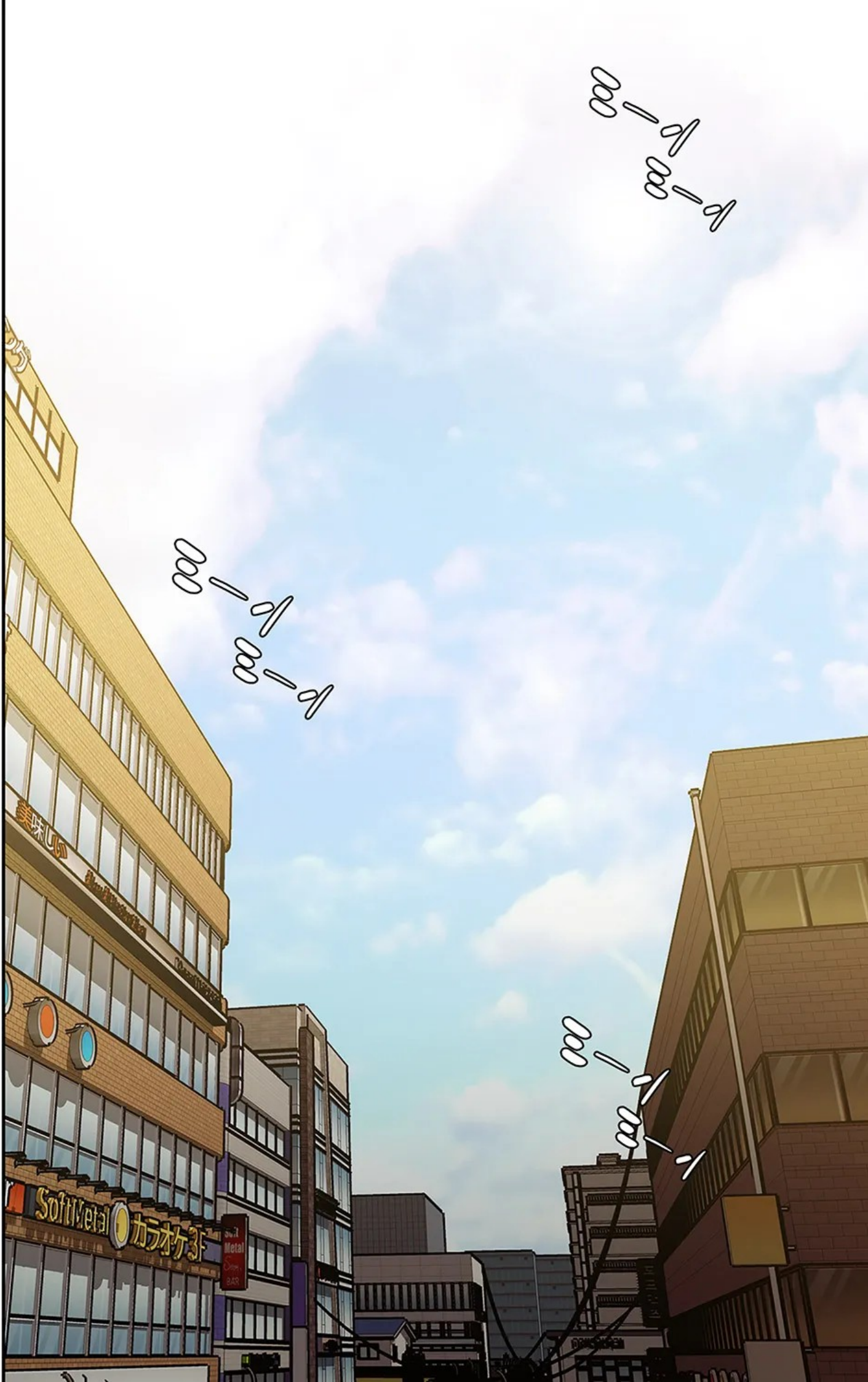


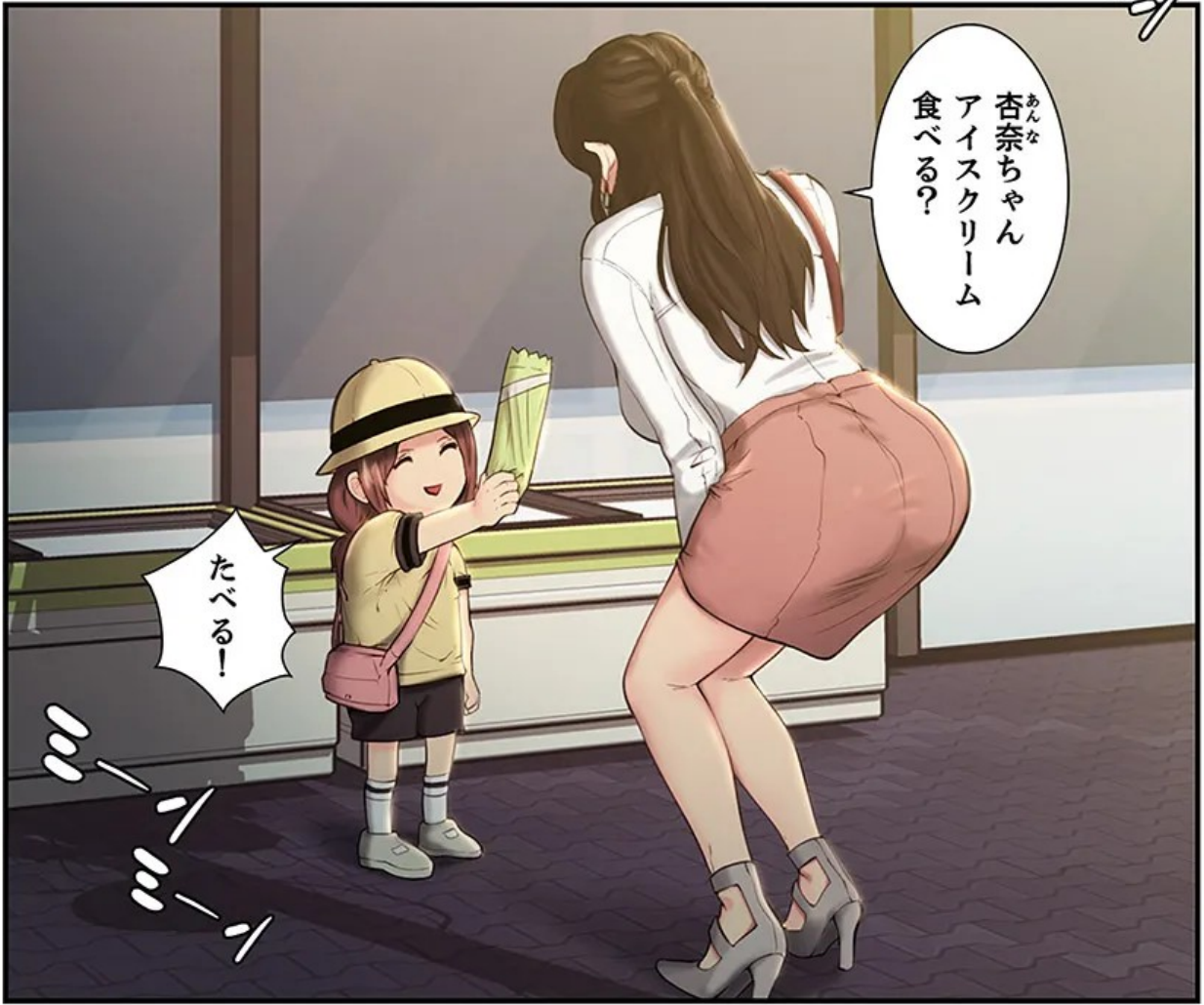
略奪者の小説

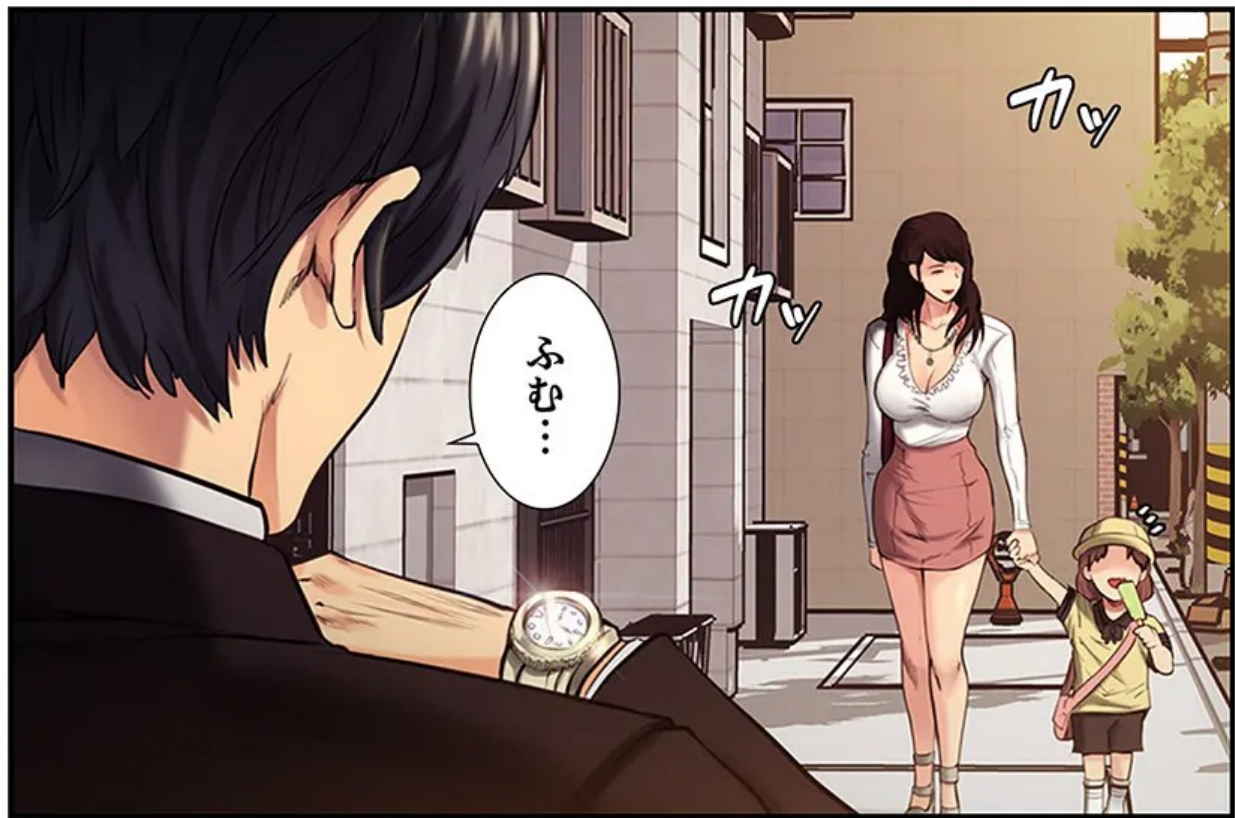
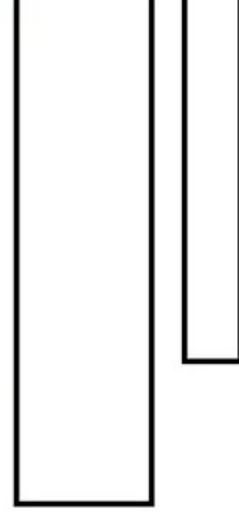
とび 1

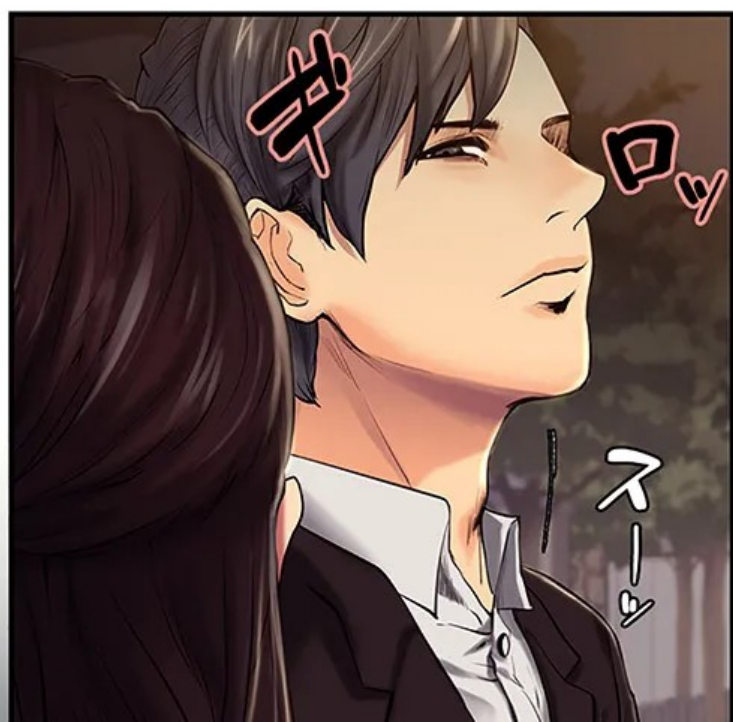
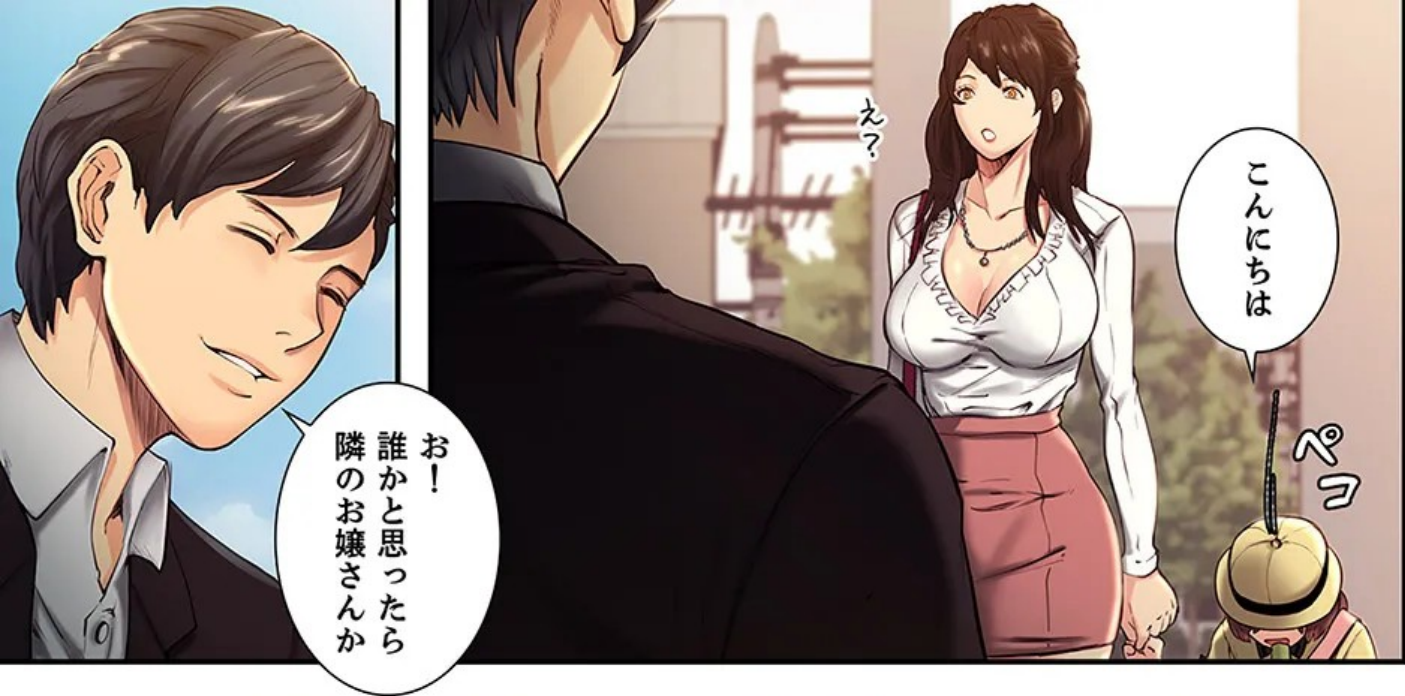
作画 マンガ帝国

原作 Serious









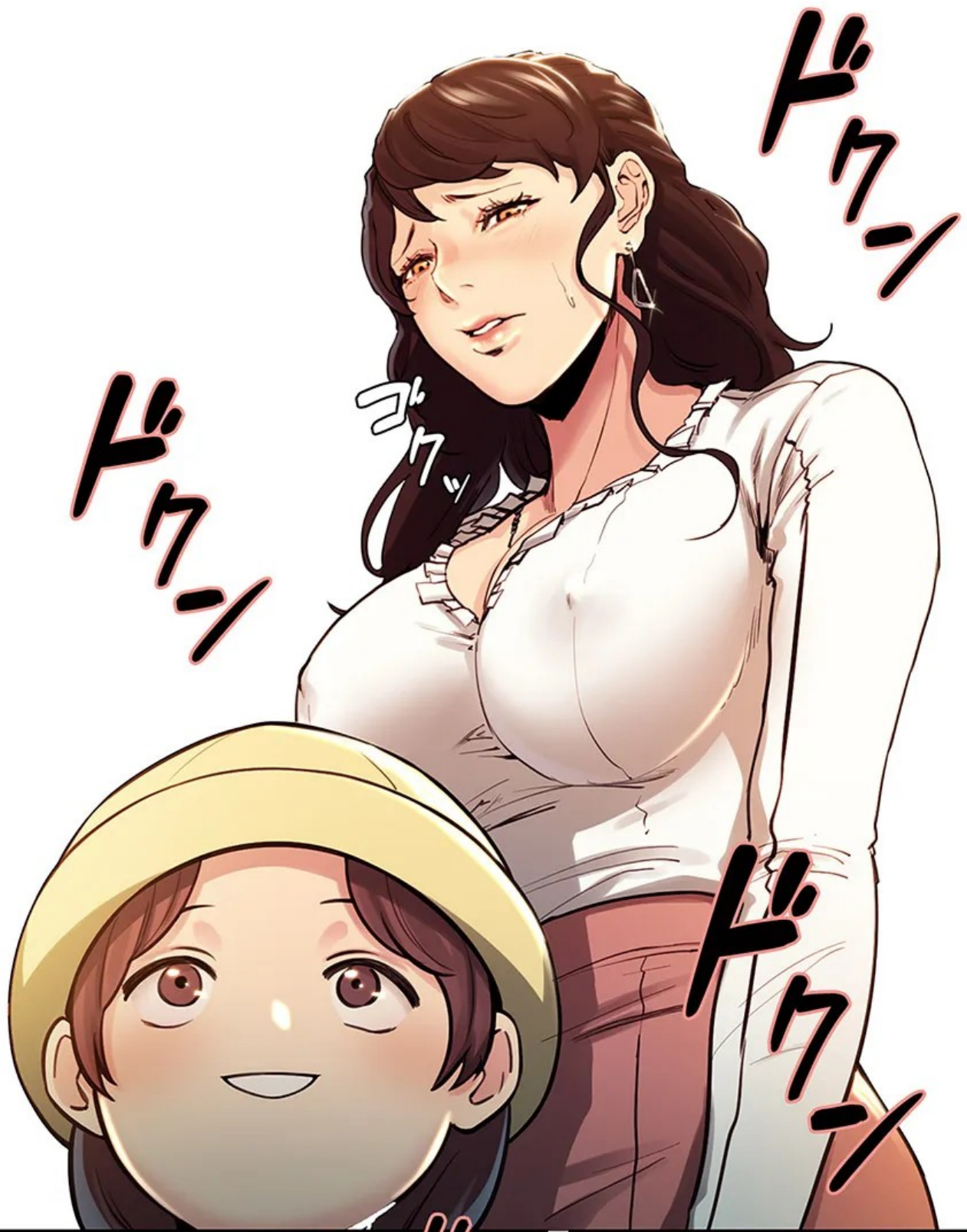


魅力的な
若い身体…









この世で一番
美味しい物は…



ほら！

カリッ

いんやうてー！



分かったかな？



他人の物を奪って食べる事さ！

ヒッ
クッ



じゃあおじさんは
君のお母さんを
頂こうかな



……



さっしよ…

ポト



フワ

フワ

フワ



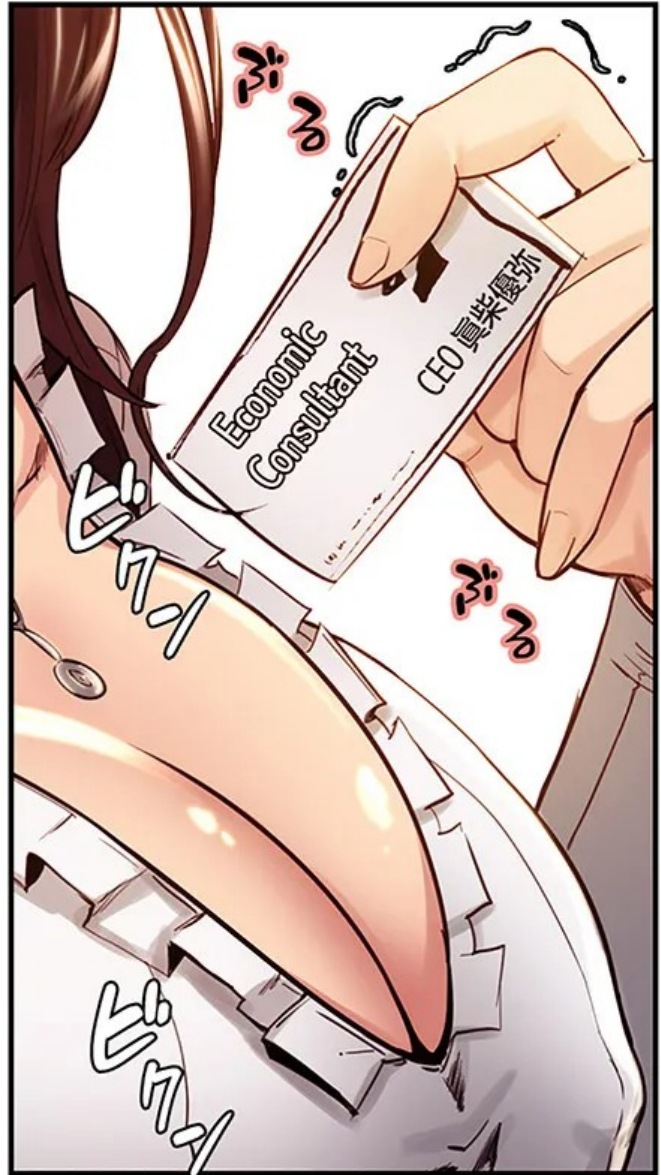
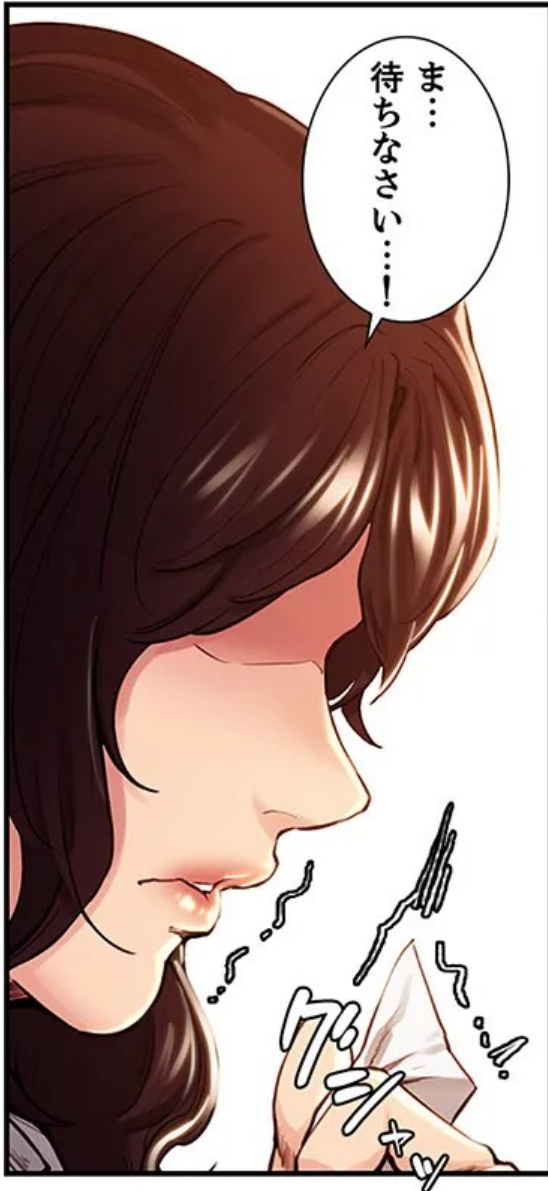
な…
何を言ってる…

ドク

ドク











若くてイイ男に
抱かれてみたいんじゃ
ないのか？



でも

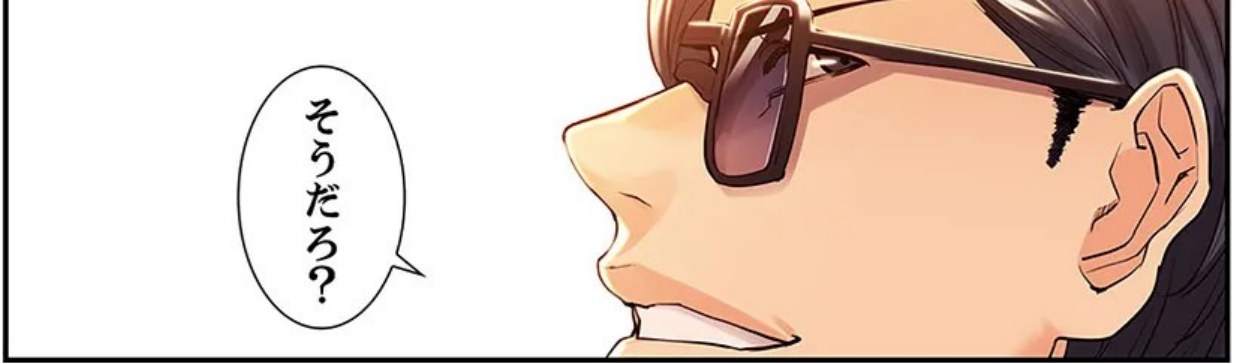
あんた本当は
期待してるん
だろ？



何ですって…？

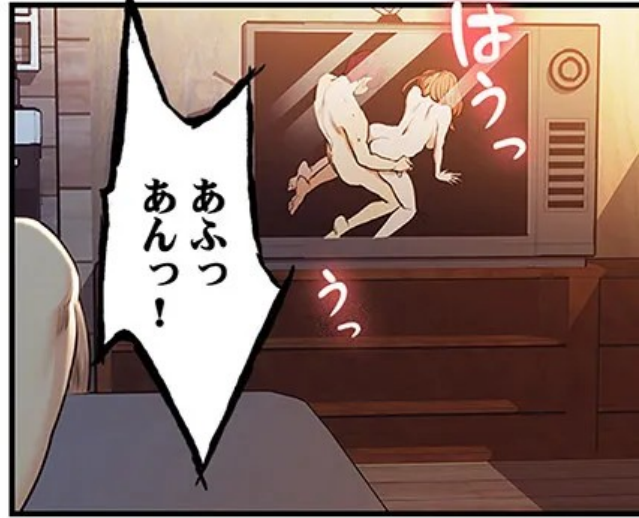


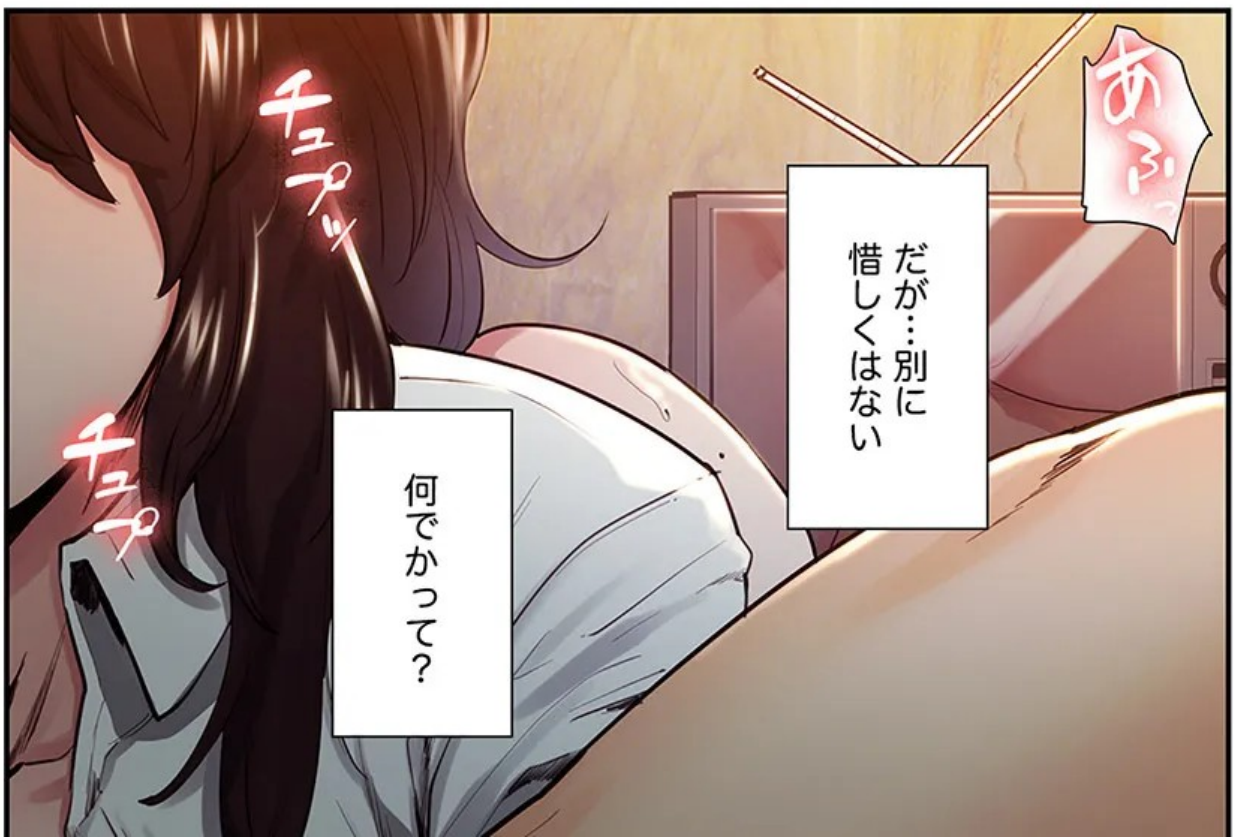
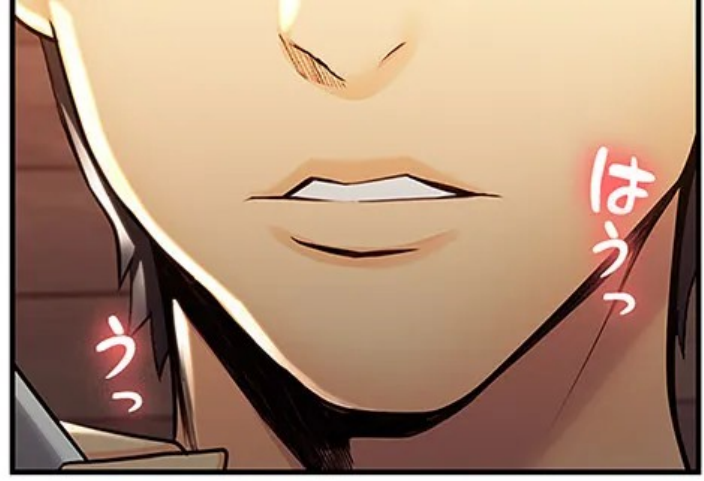
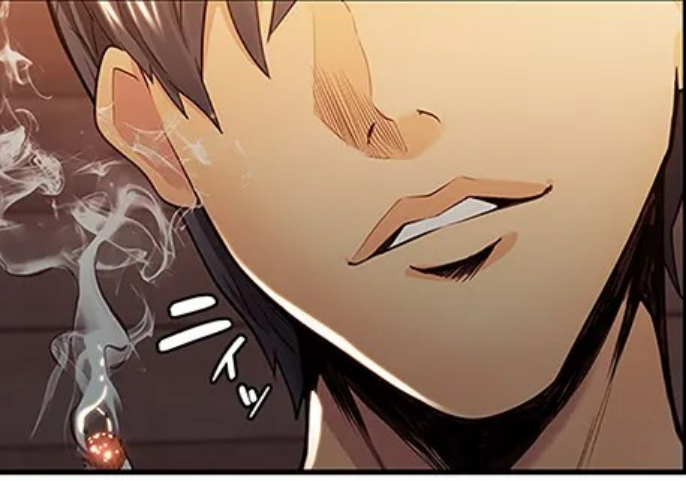
金があるだけの
年老いた
旦那じゃなくて

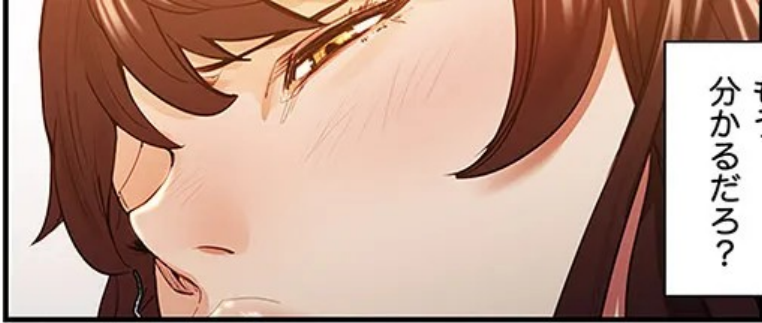


世の中は









もう
分かるだろ？

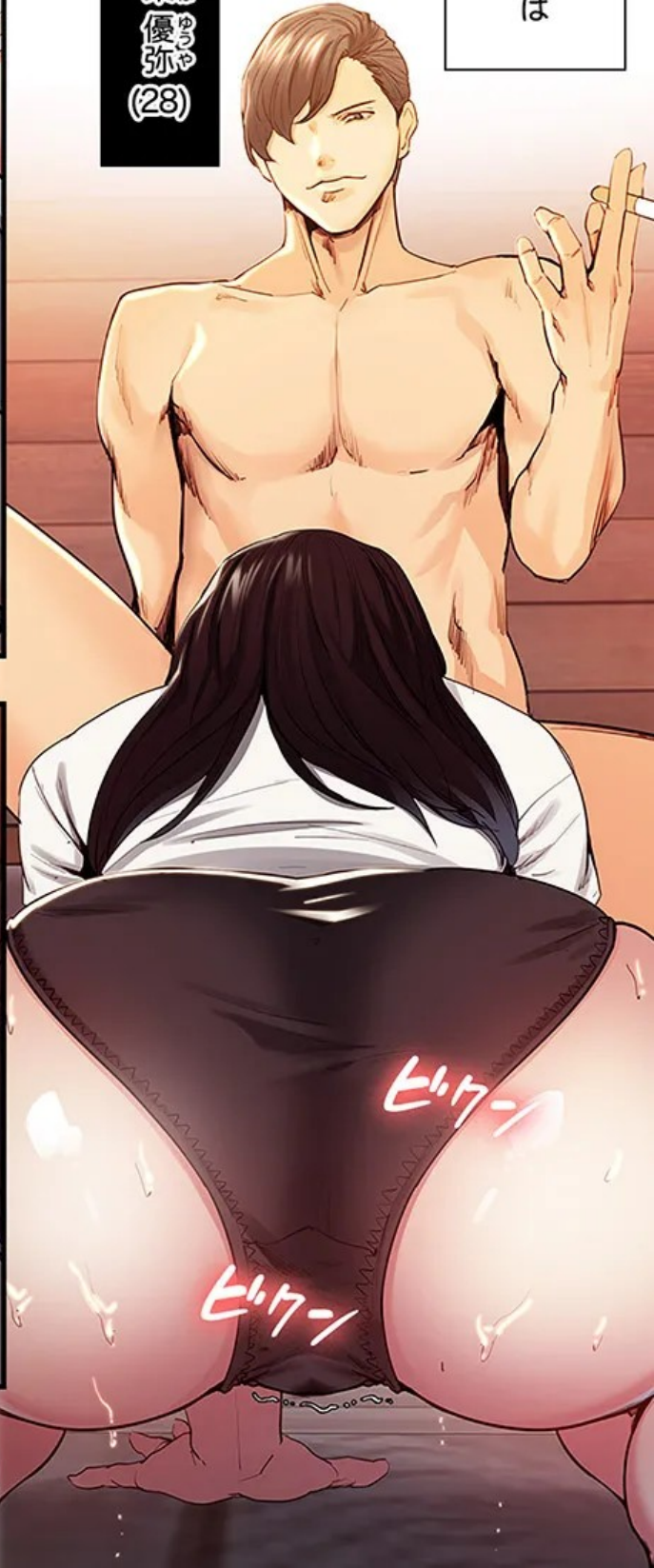


他人の女は
奪って食べれば
いいのさ



ん？ 一生懸命
俺に奉仕してるこの女？

真柴 優弥
(28)



野々村 梨花子
(27)

こいつは隣の豪邸に
住んでる若奥様だ

まだ若いのにわざわざ
大金持ちのジジイと
結婚した強欲な女：

はうっ

ぷる

ぷる

チュッ

ぷい

はっ

年寄りの枯れた身体じゃ
満たされないだろう？
だからこそ…

どう？
良かった…？

はあ

はあ…

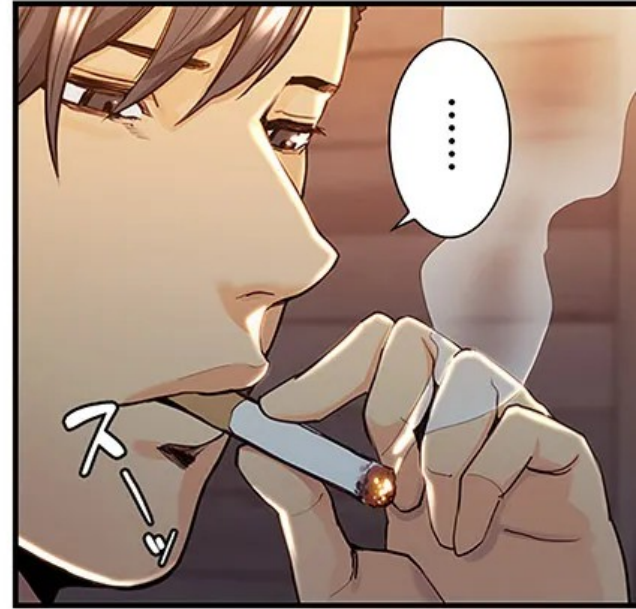
若くて強い雄に抱かれない
媚びるようなこの目つき…

クスッ

これがたまらなく
そそられる…

ビクッ

どうして
笑うのよ…！





この魅力的な唇で毎日
愛されてる旦那が憎いよ



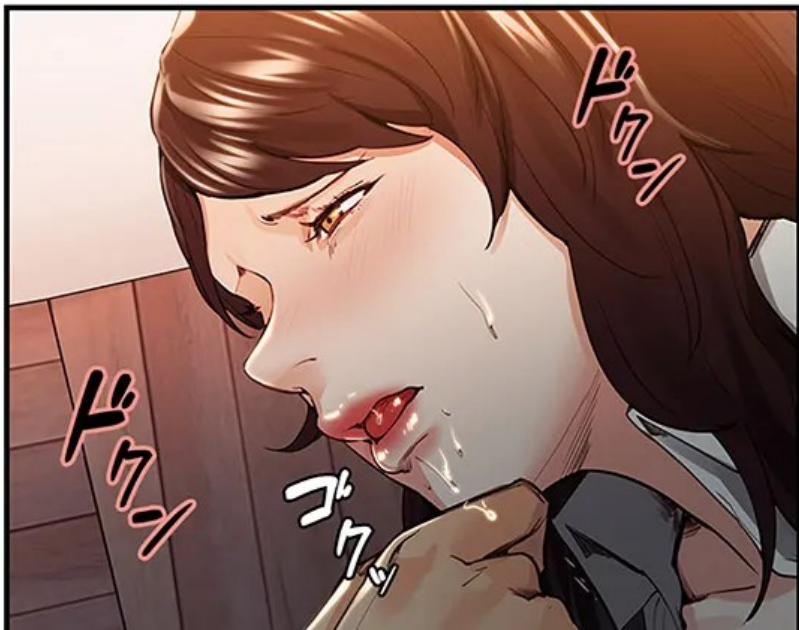
本当さ...

刺激的だろ？
他人の女を思いのままに
出来るなんて...



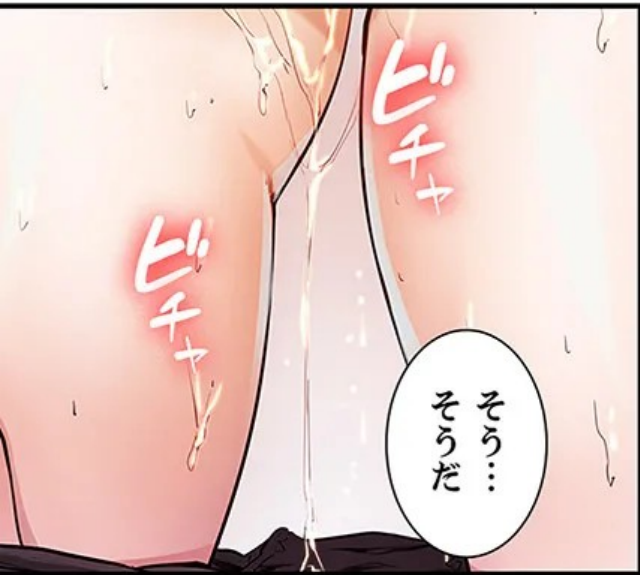
あんた...
やっぱり特別だな

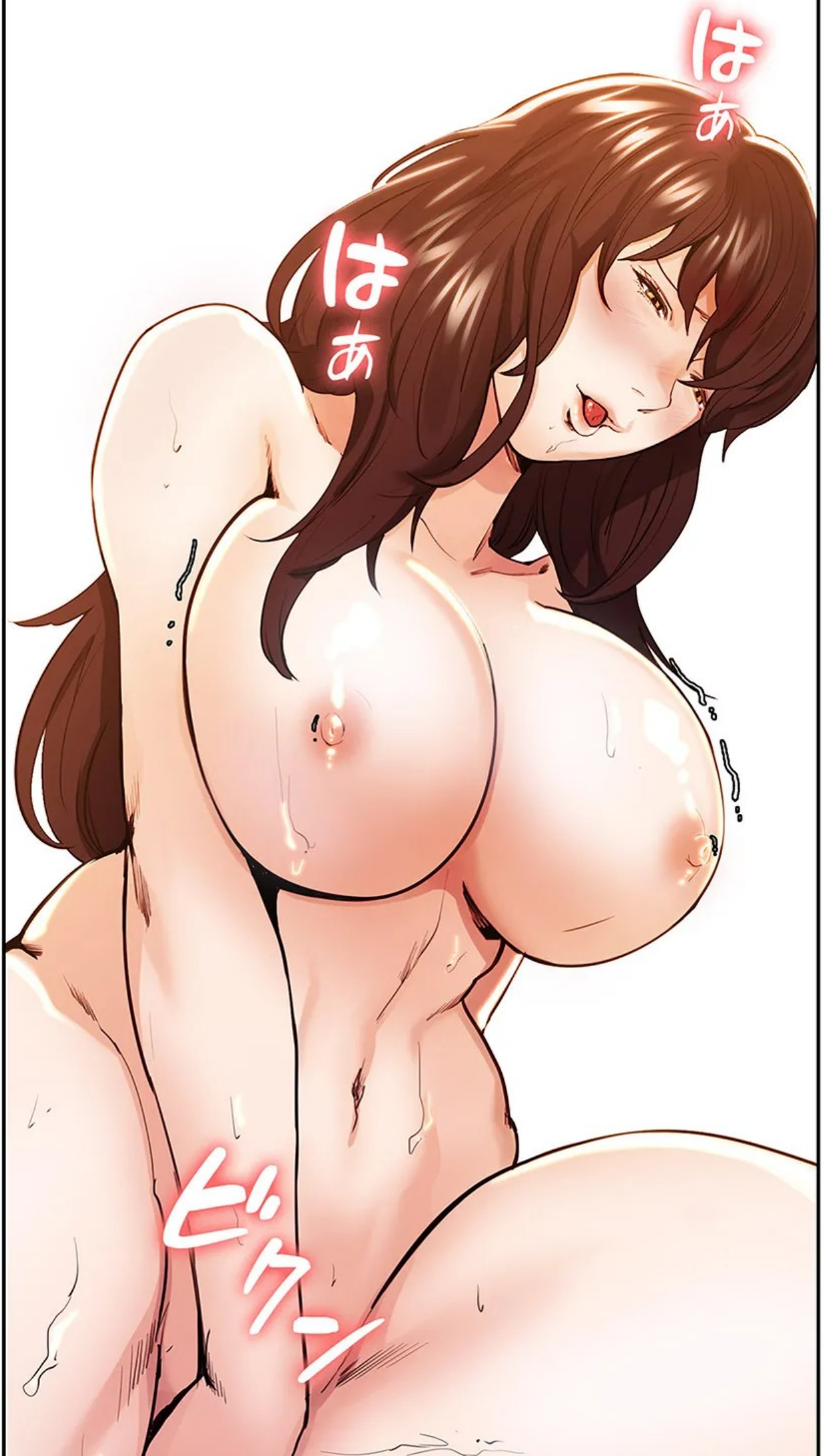
俺は女を見る目は
あるんだぜ？



ここまで来れば
もう簡単だ



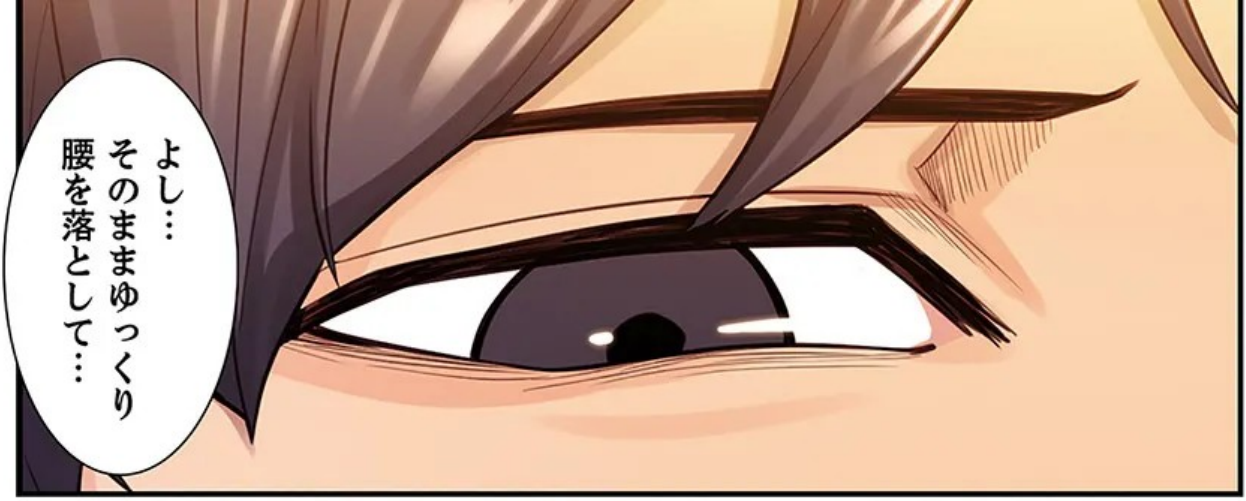




はあ

はあ

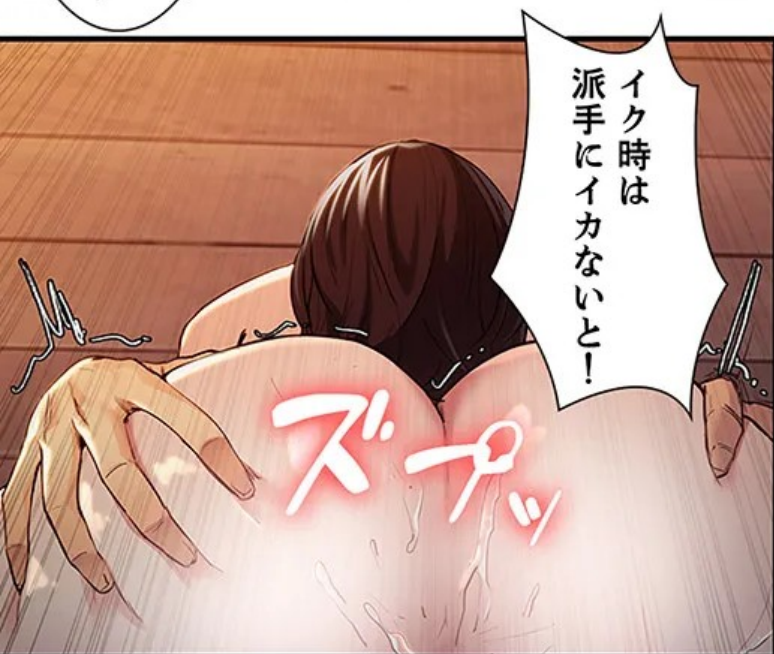
ヒクッ











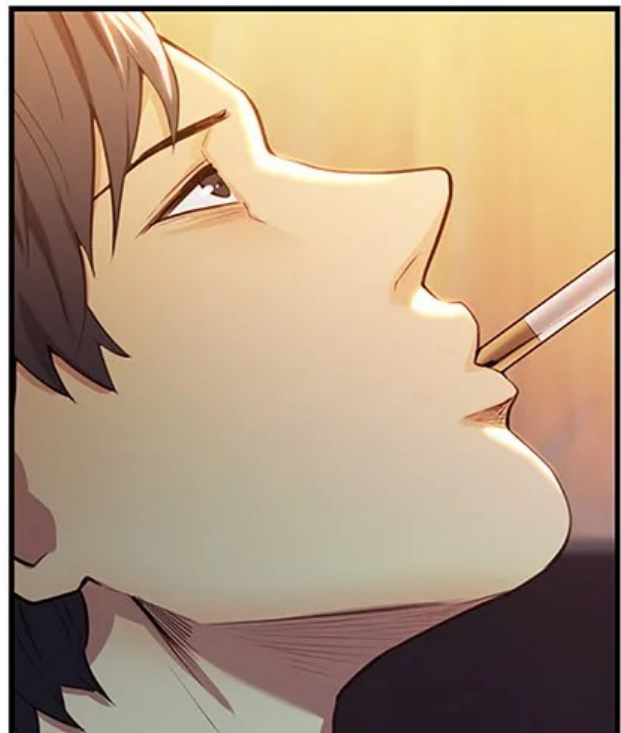
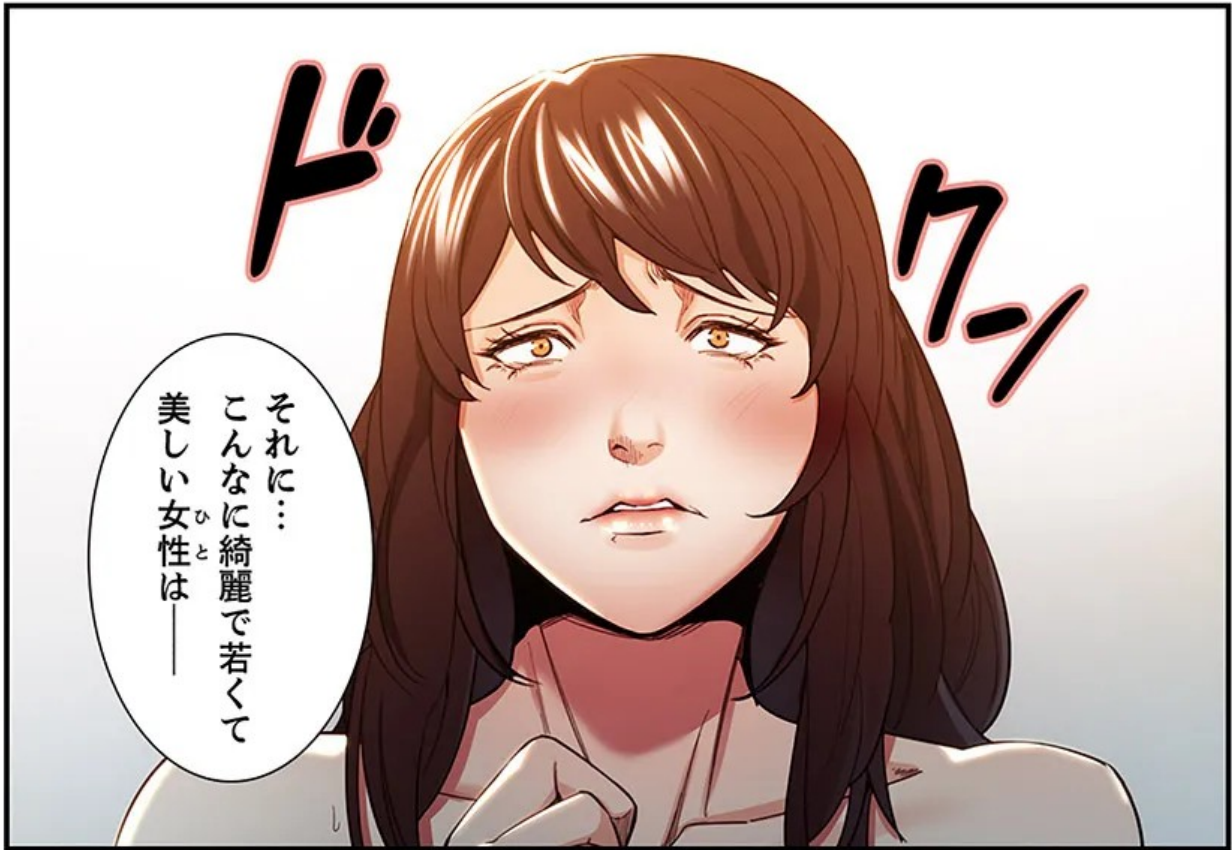


ふぁああん









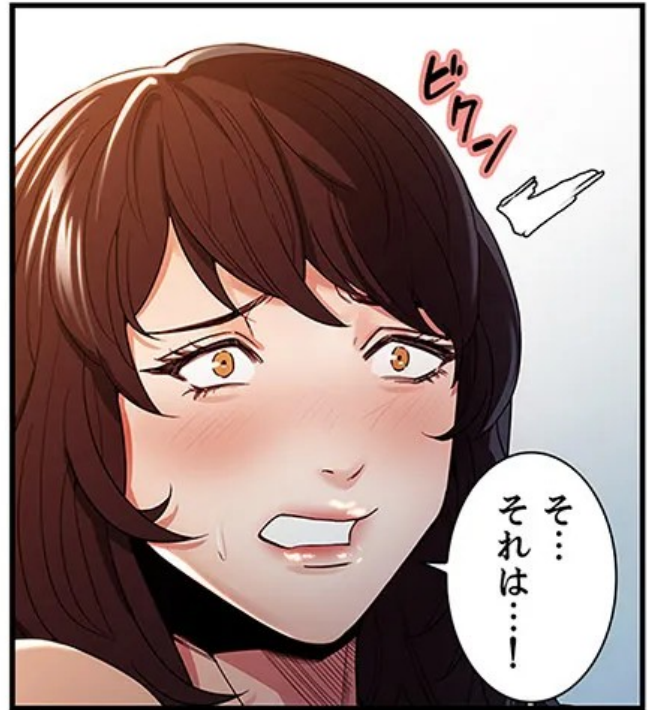


でも…
ちよつと
びっくりしたな

他の男に抱かれながら
子どもの名前を呼ぶ
なんてね…



何だか
解放感のような物を
感じてしまった…



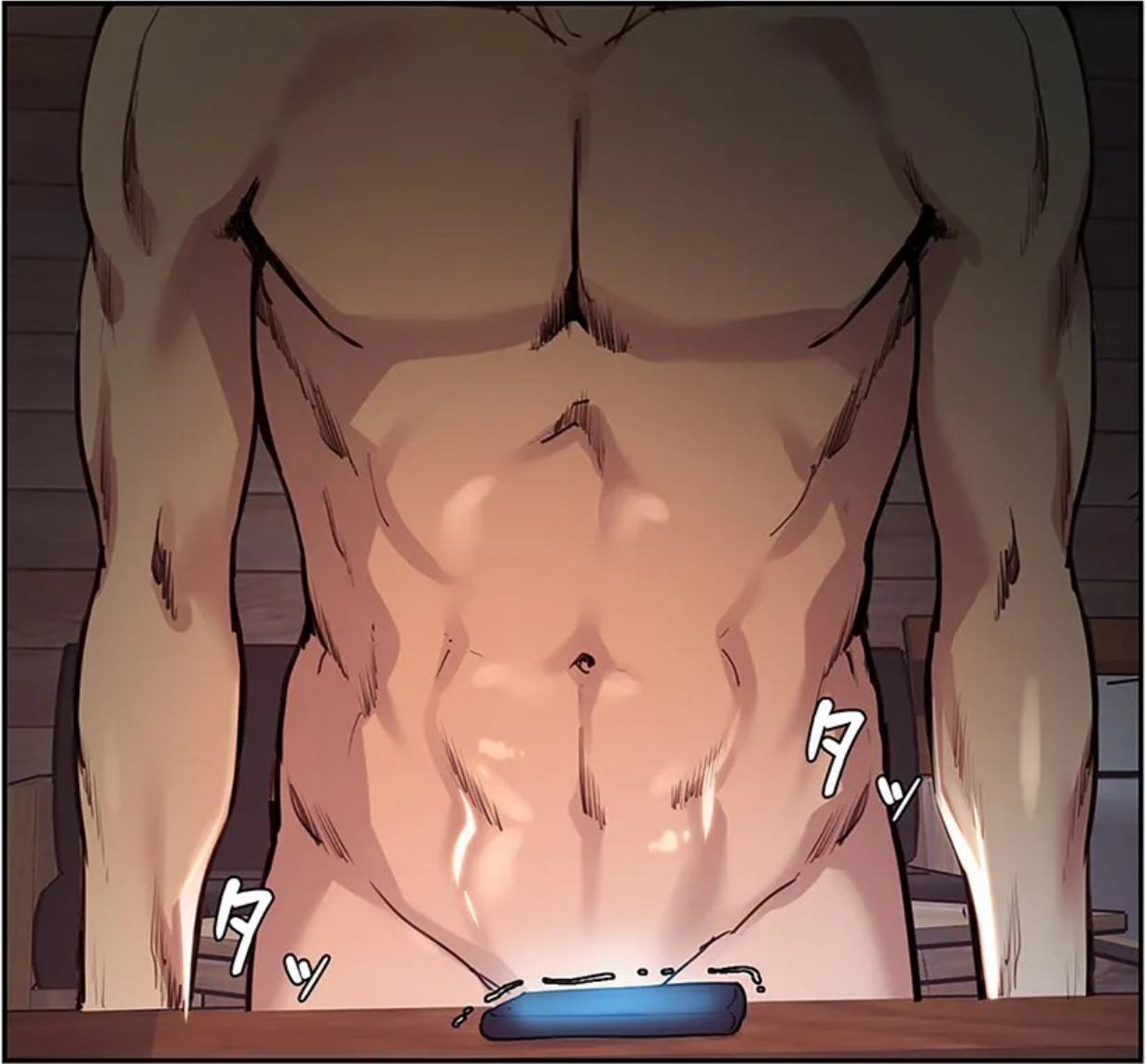
そ…
それは…!

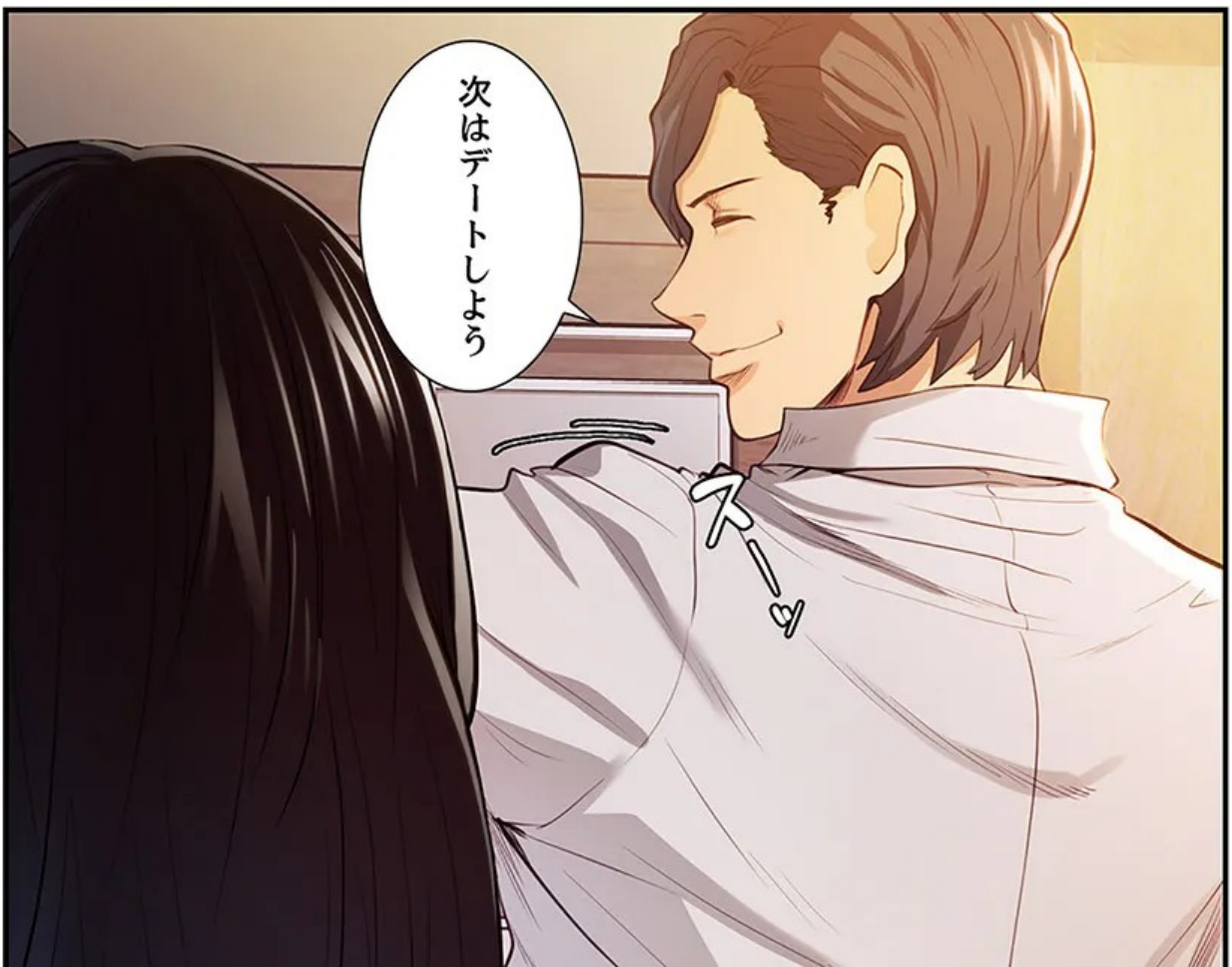


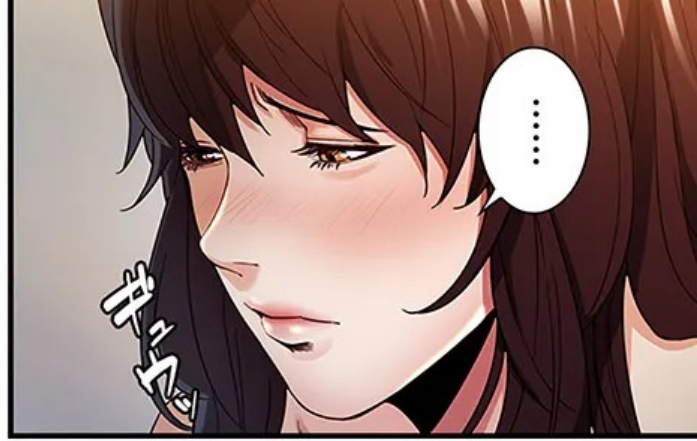
良かった…

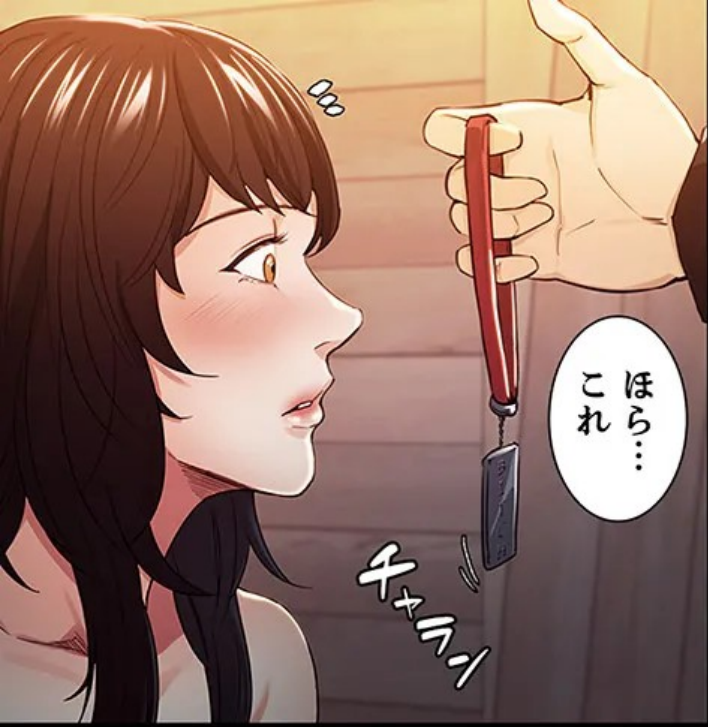


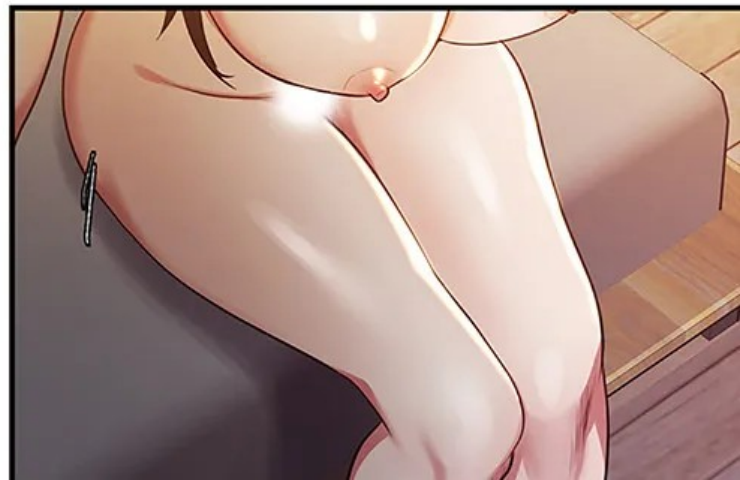
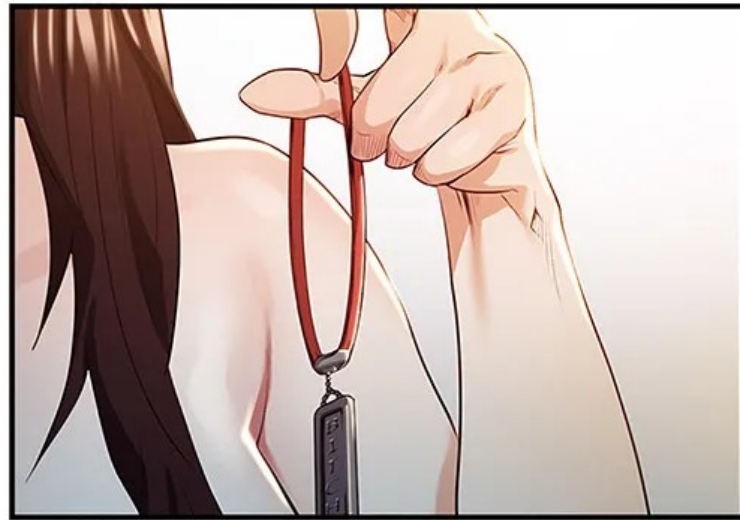
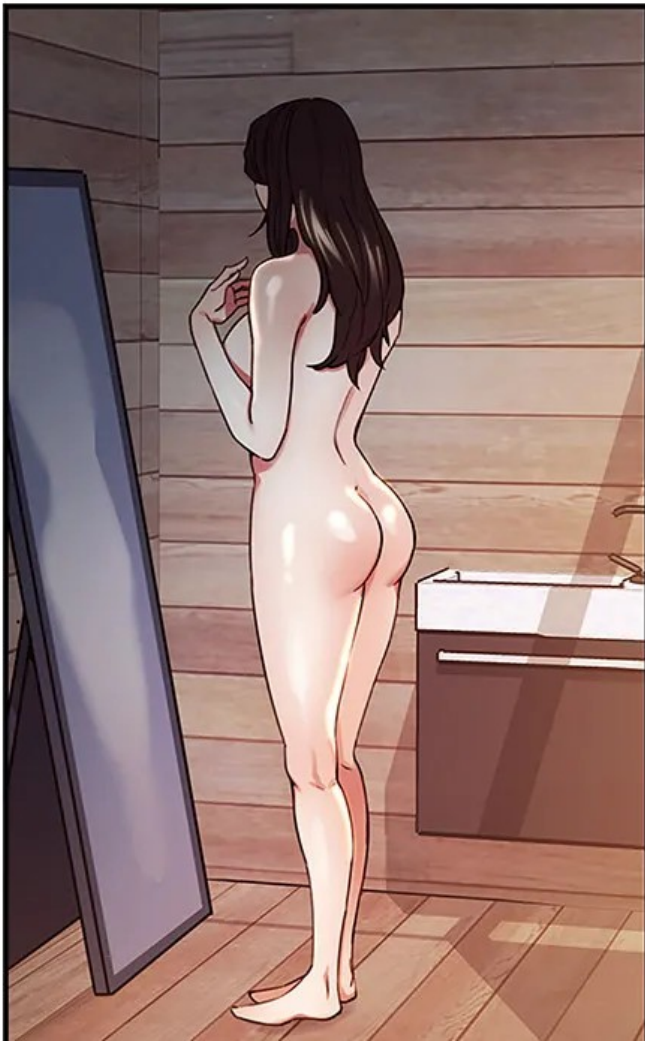
俺なりの褒め言葉さ
おかげで興奮したよ

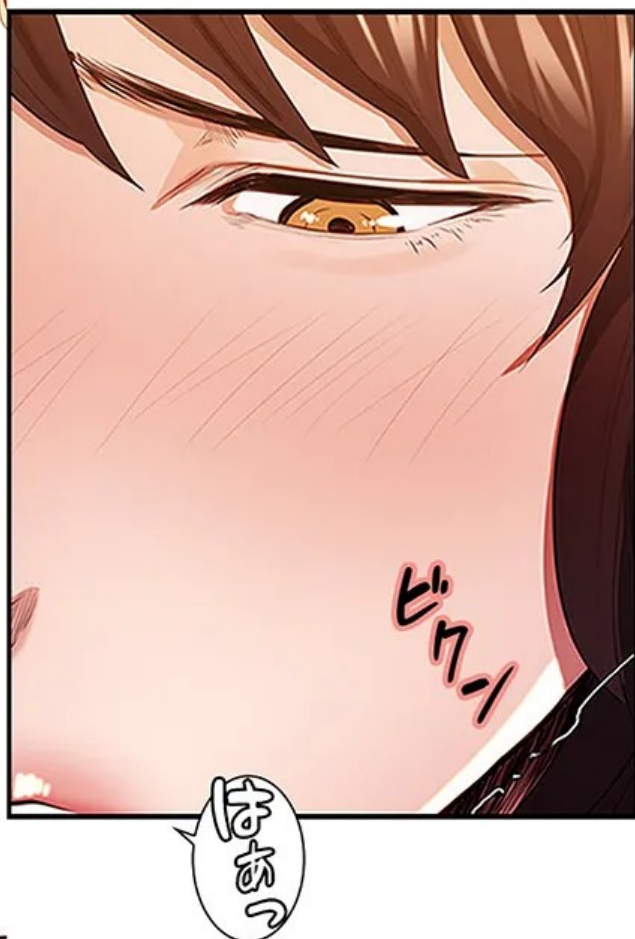
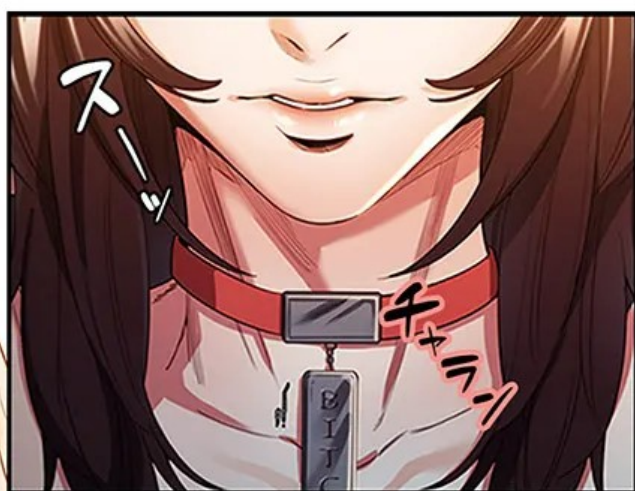


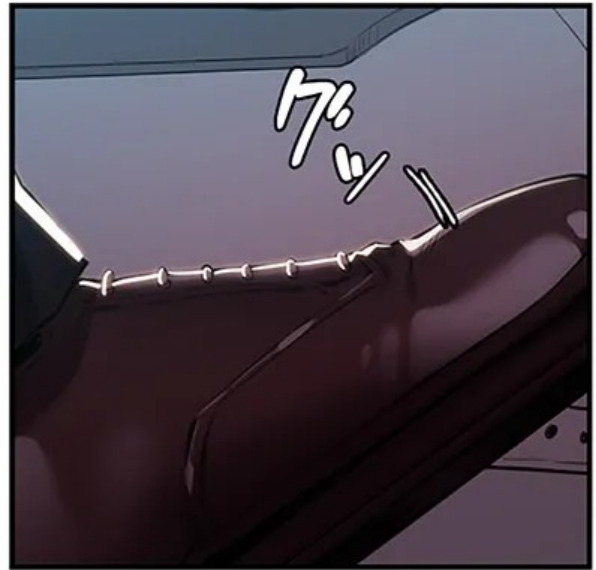
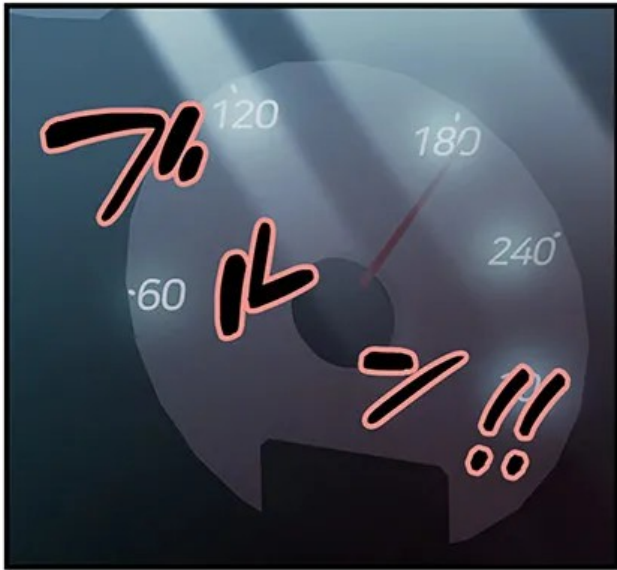






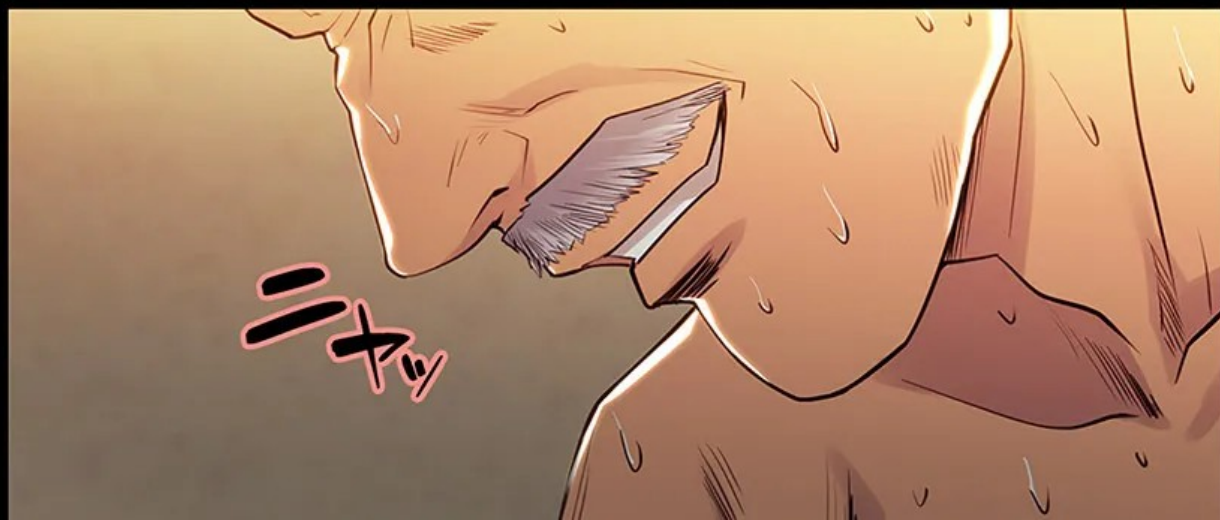








“人は何故努力をしてまで他人と競争しながら生きるのだろうか？”
なんて下らない事で悩んでいた

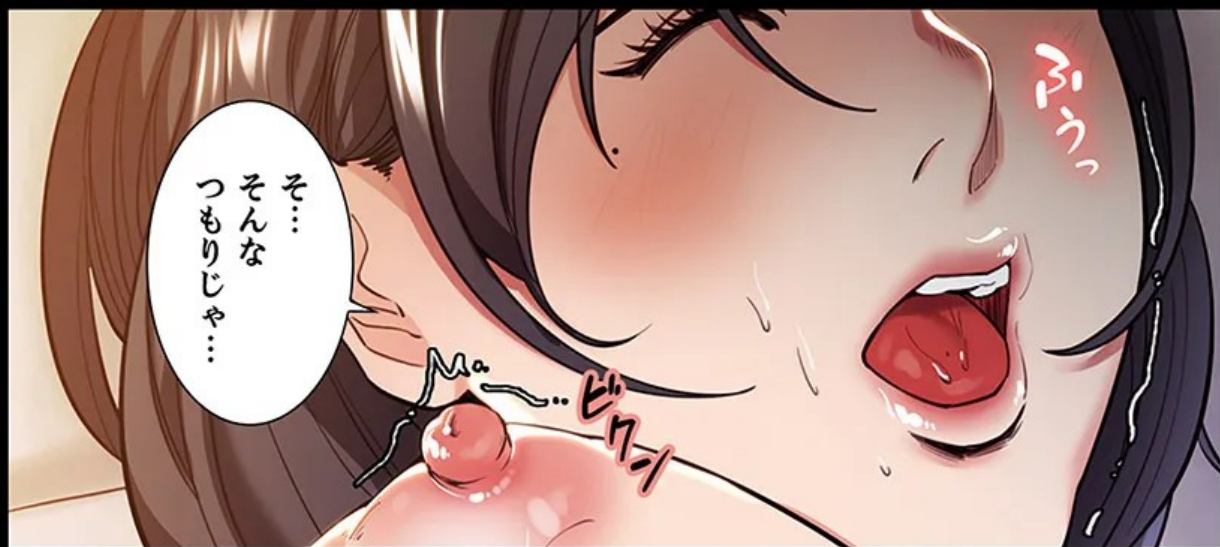




俺がお前の息子に
気を使えとでも言うのか？



ふん…
ならどうしろって
言うんだ？



そ…
そんな
つもりじゃ…



だったら口答えを
するな！
もう少しでイキそう
なんだよ！

あふっ

はあ

はあ

ぐゅゅ

ぐゅゅ



どうしてだ？



他人より良い車に
乗りたいからか？

それとも高い服を着て
高い腕時計をする為？

ク
チ
ユ
ツ



ち
ざ

全部違う

くろうっ！
イク…！
イクぞ！

ク
チ
ユ
ツ

く
ろう
っ

そんな事は
一面に過ぎない



より良質な雌や雄を
己の支配下に置く為――



ほらさっさと
綺麗に舐めろ
このアバズレめ!



俺は…秘書だった母さんを
言いなりにさせていた会長の
下卑た表情を見て確信した




…はい
会長



ある意味母さんも
最善を尽くしていたと
言えるだろう

優れた雄の
所有物になったのだから







肉食獣のように
ギラついたこいつの
目に俺はいつも
怯えていたけれど




はい…



お前中学生に
なったんだろ？



あ…
ありがとう
ございます



だったらもっと
金があるだろう？
これをやろう





ごめんね…
お腹空いたよね？
すぐに作るから…

ガラッ♡



あんまり
お腹空いてないよ…

ガッ…



大丈夫





まあ...
そんな訳で



幼い頃に他人より早くこの世の
理ことわりが分かってしまった俺だったが

それは俺の人生にとって
プラスに働いた

明確な価値観は
成り上がる為の
原動力になった

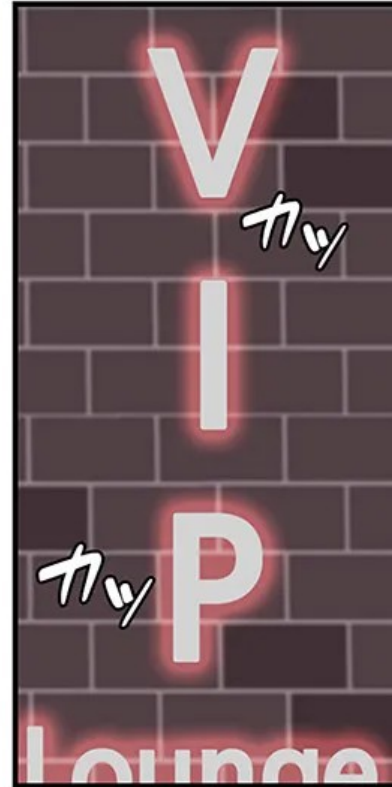
ふっ…

うわっ
高級車…

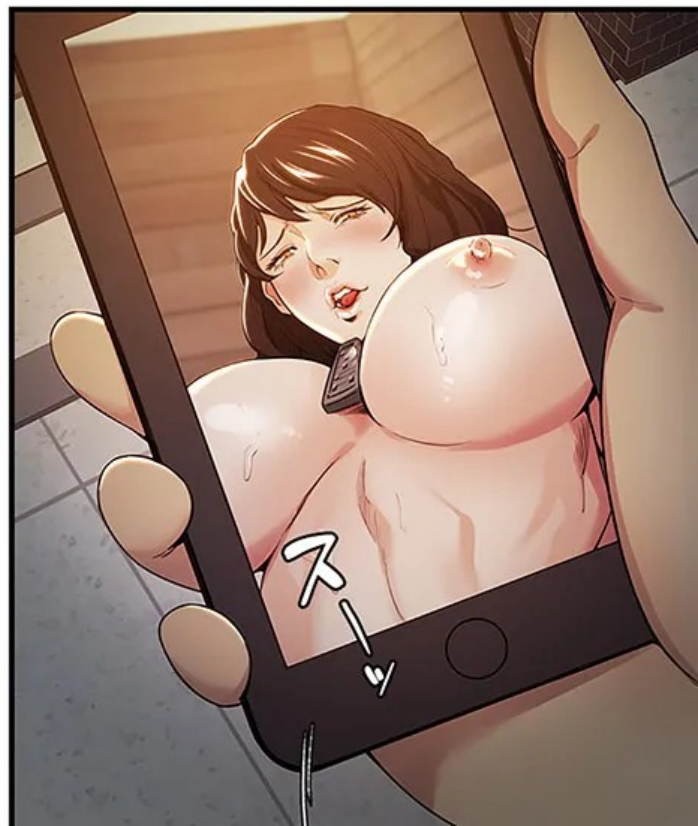
かっこいい
芸能人かな？



ん？



今度は…
俺が本能のままに
弱者を支配する番だ



目を付けた女は
必ず手に入れる…
それが俺のモットーだ

スウッ

カッ

カッ

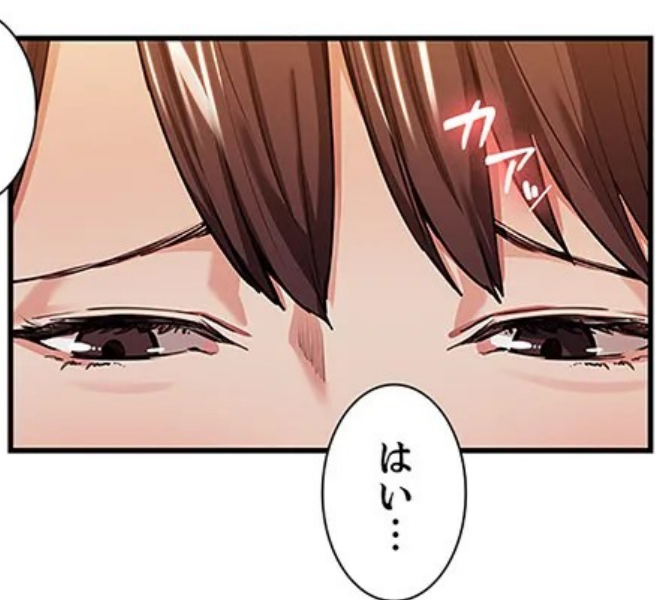
私の優弥はまだあ〜？
何でこんなに遅いのよお！
…ひっく

とはいえ恋人という
存在もステータスとして
必要だ—

みき
美姫ってば
酔い過ぎだよ！

だが…

ス—♡



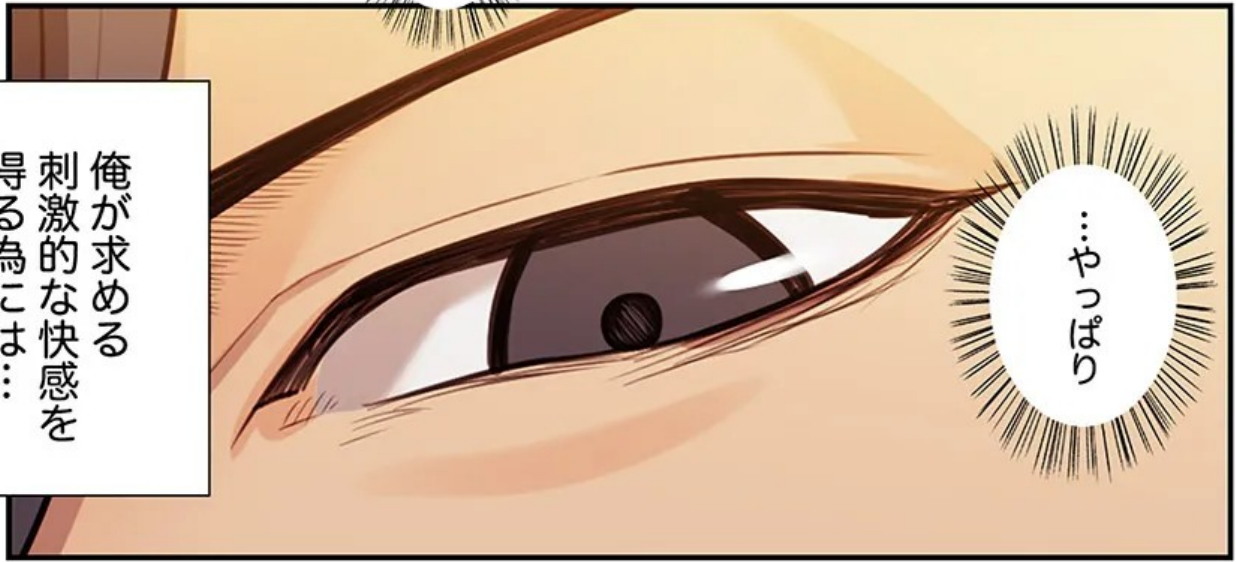


愛してるよ

ふむむ…



ゆるやあ…



俺が求める
刺激的な快感を
得る為には…

…おっぴり



ご…
ごめんなさい
優弥さん！

ペ

コッ

ドクン

あんまり飲んじゃ駄目って言ったのに…



ドクン



やはりこれが必要だ—

ニヤッ



略奪の悦び 1

著者 マンガ帝国 & Serious

発行 Rush!

表紙デザイン CoCo.Design

この物語はフィクションです。登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。